

令和7年8月4日14時00分
近畿地方整備局

建設現場の課題を解決できる新たな技術の発掘
～ 現場ニーズに応える技術シーズを令和7年8月4日より公募します ～

国土交通省では、建設現場の生産性向上を図る新技術の現場導入を目的に、建設現場のさまざまな課題である現場ニーズと民間等が開発した技術シーズのマッチングを令和元年度より行っています。マッチングが成立した技術は性能評価検証を行うための現場試行を実施し、得られた現場試行結果を評価し公表します。

この度、近畿地方整備局における令和7年度の建設現場のニーズ15件に対し、下記のとおり新たな技術の公募を行います。

○公募期間： 令和7年8月4日(月)～令和7年9月5日(金)

○公募資料：

1. 「現場ニーズに対応する新たな技術(シーズ)」に関する公募要領
2. 現場ニーズ集計表：別紙ー1
3. 現場ニーズ概要表：別紙ー2
4. 「現場ニーズに対応する新たな技術(シーズ)」に関する公募 資料作成要領

※公募資料は、以下の近畿地方整備局HPよりダウンロードできます。

○マッチングについて

- ・応募は、自ら応募技術を開発した「個人」又は「民間企業」が対象です(詳細は公募要領を参照)。
- ・応募技術は、公募期間終了後、マッチングイベント、個別調整を行った上で、マッチングの判断をします。
- ・マッチングイベントは、令和7年9月24日(水)開催予定です。
- ・マッチング結果は公表し、原則ニーズ提供者の現場にて現場試行を実施します。

＜近畿地方整備局HP＞

<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/i-construction/matching.html>

※過去のマッチング結果や現場試行結果については、上記HPにて公表しています。

＜取扱い＞

＜配布場所＞ 近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ

＜問合せ先＞

国土交通省 近畿地方整備局

TEL: 06-6942-1141(代表) 06-6920-6023(直通) FAX: 06-6942-4439

企画部 施工企画課 課長 菊池 弘 (きくち ひろし)

課長補佐 谷口 尚典 (たにぐち ひさのり)

新技術ニーズ・シーズのマッチングについて

近畿地方整備局では、「**新技術の発掘**」や「**企業間の連携**」を推進し、新技術の開発促進・普及拡大を目的に、現場ニーズと技術シーズをマッチングさせる取組みを令和元年度より実施しています。令和7年度は各事務所より現場ニーズ15件（別紙参照）について技術シーズを一般に公募し、マッチングに取り組みます。

マッチングした技術は現場試行を行い、現場試行の検証結果を基に、課題等を技術開発者へフィードバックするなど、技術開発者への開発支援を行うとともにNETIS登録を支援します。

応募概要

下記応募に関する条件等を抜粋し記載しております。

※詳細はHP資料をご覧ください。

■応募技術の条件

- 1) 新技術情報提供システム(NETIS)に登録されていない技術であること。
なお、以前登録されていた技術も対象外とします。ただしNETISに登録している技術であっても、ニーズの内容によっては、NETISに登録されている技術を新たに改良する事により、マッチングできる可能性があるものについては、対象技術とします。
- 2) マッチングの可否についての選定等の過程において、選定等に係わる者（事務局等）に対して、応募技術の内容を開示しても問題がないものとします。

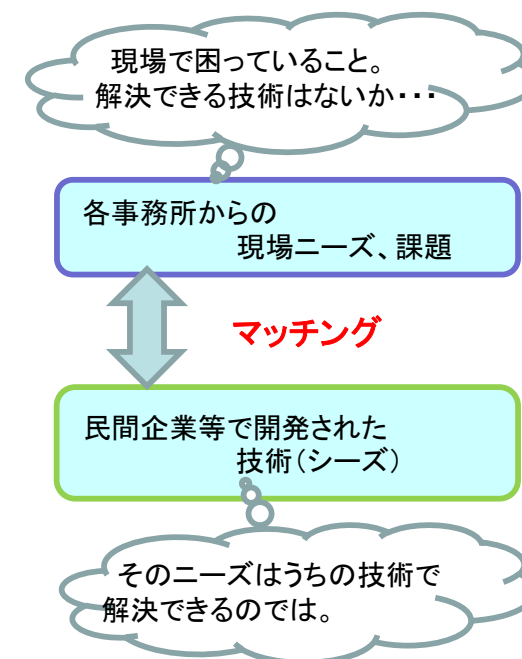
■応募資格

応募者は、以下の2つの条件を満足するものとします。

- 1) 応募者自らが応募技術の開発を実施した「個人」又は「民間企業」であること。
- 2) 応募技術を基にした業務を実施する上で必要な権利及び能力を有する「個人」又は「民間企業」であること。

○近畿地方整備局実施 <R7予定>

8月4日～9月5日	シーズの公募
9月24日（予定）	マッチングイベント
10月中旬	個別調整
12月上旬	マッチング結果公表
12月～	現場試行
現場試行が済み次第	試行検証結果を技術開発者へフィードバック



現場ニーズの概要表

No.	ニーズテーマ	ニーズ概要
1	既設樋門設備における堆積土砂除去技術	河川の樋門設備の流速が遅い箇所では水路に土砂が堆積しやすく、閉操作時に過トルクやロープ緩みが発生しやすい。 このため、溜まった土砂を水圧等で除去する装置は従来からあるが、後付け可能で水圧や空気圧を利用した堆積土砂除去技術（装置）を求める。
2	ダム貯水池浚渫における礫混じり土砂の効率的な除去・搬出技術	貯水池内の浚渫工事において、比較的大きな粒径の礫混じり土砂を高低差のある作業構台を使って、効率的に堆積土砂を除去・搬出できる技術・工法を求める。
3	河川堤防の除草・集草作業のコスト削減技術	堤防の変状確認点検のために、広大な河川堤防の除草・集草が必要である。この除草作業は、除草・集草（機械運搬・維持管理・刈草処分を含む）に多大なコストがかかるという課題がある。 このため、除草・集草（機械運搬・維持管理・刈草処分含む）の省力化・効率化を行い、作業全体でコスト削減ができるような技術を求める。
4	河川内の樹木除去におけるコスト削減技術	堤防の法面や高水敷に生えている大きな樹木を除去は、通常、チェーンソーや大型機械を用いた伐木・運搬・処分を行っている。しかし、作業の安全性や費用面に課題がある。 このため、より安全で低コストで堤防樹木を除去できる技術を求める。
5	複数台の自動化除草機械の一元管理による堤防除草作業	現在、河川堤防の除草は主にハンドガイド式で行われており、長い堤防延長のため多額の費用がかかっている。 このため、一人の監視体制で複数台の自動除草機を運用することで、人件費削減による大幅なコスト縮減と安全性の向上ができる技術を求める。
6	河川堤防除草作業における散在ゴミの効率的な事前収集技術	年2回の除草を行っているが、草丈が伸びているため堤防に落ちている全てのゴミが見えず、複数人で手作業であるためゴミの取りこぼしが発生している。また、ハンドガイド式の除草機械にゴミが絡まる等の事故も発生しており、作業の非効率性と安全上のリスクが課題となっている。 このため、除草作業前にゴミを確実に収集することで、人件費削減によるコスト縮減と除草時の安全性を高めることができる技術を求める。
7	急峻な斜面における除草・集草作業の省力化・省人化技術	急峻な斜面での除草作業は、現状の肩掛式人力施工では夏場の熱中症リスクなど作業員の大きな負担となっている。 このため、急峻な斜面でも施工可能で除草だけでなく集草も併せて行える無人化施工など省力化・省人化できる技術を求める。
8	獣害による河川堤防法面の掘り起こし被害を恒久的に防止する技術	イノシシによる堤防法面の掘り起こし被害が多発しており、その都度発生する補修コストが課題となっている。 このため、河川の自由使用を妨げずに、イノシシが慣れにくく、恒久的な効果がある堤防法面の掘り起こし被害防止ができる技術を求める。

現場ニーズの概要表

No.	ニーズテーマ	ニーズ概要
9	IT技術等を活用した境界杭位置を現地で迅速に確認できる技術	河川や山間部での境界杭探索は、目印の少なさや草木による視認性の低さから、境界確定図があっても困難を伴い、多大な時間を要している。 このため、探索時間の短縮と作業効率の向上が期待されるIT技術を活用し、座標データに基づいて現場で境界杭を容易に特定できる技術を求める。
10	非開削による道路埋設配管（無散水融雪設備）の漏水箇所調査技術	無散水融雪設備は路面の下に配管を埋設し水を循環させて熱を伝えて雪を溶かしているが、配管の破損により漏水が発生する場合がある。これらの漏水は、最終的に路面陥没という深刻な問題を引き起こす可能性がある。 このため、非開削による道路埋設配管の漏水調査ができる技術を求める。
11	降雪時の路面状況に応じた凍結防止剤の自動散布技術	現在設置されている路面温度・水分・雪センサーを組み合わせた凍結防止剤の自動散布システムは、判定精度が低く、不要な散布が発生しているため、最終的に手動で運用している。 このため、降雪時の路面状況に応じた凍結防止剤の自動散布ができる技術を求める。
12	交通規制を伴わない区画線施工技術	通行量の多い区間での区画線施工は、交通規制が困難で、時間やコストがかかるという課題がある。 このため、施工の効率化とコスト削減が期待される交通規制を伴わない区画線施工技術を求める。
13	MR+AI技術を活用しコンクリートの施工品質を向上する技術	現場打ちコンクリートの施工では、気象条件や材料の違いにより、打設状況に応じた適切な締固め管理が不可欠である。しかし、熟練技能者の離職や技術継承の不足、若手技能者の経験不足が課題となり、高品質な施工の維持が困難になっている。 このため、MR（複合現実）+AI眼鏡と自動パイプレータを活用するなど現場で施工を簡素化でき、コンクリートの品質向上と均一化できる技術を求める。
14	山間部における人員・資機材の運搬・移動支援技術	山間部の作業現場では、長時間の徒歩移動による作業員の疲労蓄積が、作業効率と安全性に深刻な影響を与えている。特に、急傾斜地や階段状の登坂路など、従来の運搬手段が利用できない地形での資機材（チェーンソー、燃料、測量機器、小型林業機械など）の運搬は、人力に頼る非効率で危険な作業となっている。 このため、狭小な山道でも利用可能で、遠隔操作や自律走行に対応できる無人搬送ドローンやアシスト歩行補助機などの技術を求める。
15	河川工事における大型土のうのリユース技術	河川内の締切工では、大型土のうの作成・据付に要する期間が工程を圧迫しており、これが工期全体の長期化につながっている。工期が連続するような工事間で2回、3回と再利用可能な大型土のう袋があれば、工期短縮と廃棄物量の削減に大きく貢献すると考えられる。 このため、河川工事において、大型土のうがリユースできる技術を求める。